



ごあいさつ



菊池園 施設長 上野 久義

4月1日から、菊池園に施設長として勤務いたしております
上野と申します。3月31日まで熊本県で仕事をしておりましたが、今回縁あってお世話になることといたしました。

福祉の仕事は県職員として30年余り携わり、児童福祉・障害福祉・母子福祉・老人福祉・生活保護と様々な福祉行政に関わって参りました。とりわけ、生活保護行政には、ケースワーカー及び査察指導員として11年間関わり、いろんなことを勉強させていただきました。

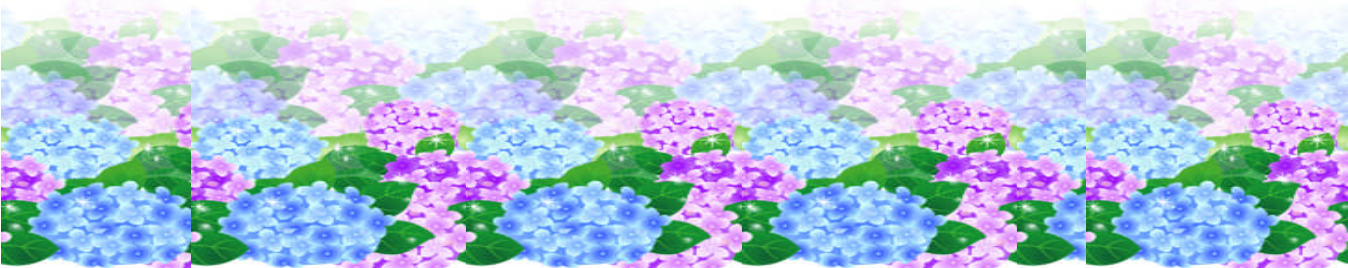
いままで施設の外からの関わりでしたが、今施設長として施設内から改めて毎日勉強をさせて頂いております。

菊池園では、「利用者個人の尊厳」及び「利用者が心身ともに健やかに、かつその人に応じて自立した日常生活が送れるよう支援する」ことを基本理念と掲げております。

利用者の皆さんが安心して生活ができるよう、施設での生活が「生き生きと幸せに、充実した生活」となるよう、施設の運営に心掛けて入所者の方々に対し様々な支援を行って行きたいと考えております。

関係者の皆様方におかれましては、今後一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。まして、簡単ではございますが、就任の挨拶とさせていただきます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



～施設内研修～ 天草園編

天草園では、年4回施設内研修を実施しています。研修内容は、職場のマナーや職員の行動規範・規則等職員の基本的なことから、心肺蘇生法やAED等の緊急時における救命処置、利用者支援の基本となる個別支援計画書、生活習慣病や食生活について、その他第三者評価や居宅生活訓練事業等の制度関係に加え、年1回以上必ず感染症についての研修を行い、職員の意識改革並びに資質の向上に努めています。

又、外部研修後は、内容次第では報告にとどまらず、伝達研修として実施しています。伝達研修担当職員は、研修後更に深く勉強し伝達研修に望みますので、研修を受ける職員以上に勉強になり、資質の向上を確実に図るにはとても適している研修方法だと思っています。今後も、伝達研修を出来るだけ多くの職員に経験して頂き、職員全体の資質の向上を図って行きたいと思っています。



施設名	施設長名	所在地	定員	開設年月日	電話番号
友愛会銀杏寮	本山 雅徳	熊本市春日5丁目17番36号	60	S35. 12. 1	096-352-6602
しらがね寮	一安 俊範	球磨郡あさぎり町上西835-2	50	S43. 4. 1	0966-45-6668
天草園	三宅栄一郎	天草市河浦町宮野河内3662-2	70	S43. 12. 10	0969-78-0053
菊池園	上野 久義	菊池市泗水町吉富17-1	50	S47. 10. 11	0968-38-2956
野坂の浦荘	永山 恵一	葦北郡芦北町大字田浦町358-2	50	S55. 5. 1	0966-87-2277
真和館	藤本 和彦	阿蘇郡西原村大字鳥子3072	50	H18. 4. 28	096-279-1121
千草寮	片山 辰己	八代市千丁町太牟田2618	50	H21. 4. 1	0965-46-0032

事業検討委員会			
役職名	職名	氏名	施設名
委員長	施設長	上野 久義	菊池園
副委員長	生活支援員	松中 直人	天草園
委員	介護スタッフ	吉住 栄一	銀杏寮
〃	介護職員	那須 貴仁	しらがね寮
〃	介護支援員	前川 真	千草寮
〃	介護支援員	赤山 義雄	野坂の浦荘
〃	介護職員	森田 良治	真和館

研修委員会			
役職名	職名	氏名	施設名
委員長	施設長	一安 俊範	しらがね寮
副委員長	生活支援員	蒔本 健作	天草園
委員	介護スタッフ	澤田 理美	銀杏寮
〃	介護支援員	金子 幸代	菊池園
〃	介護支援員	本山 優子	野坂の浦荘
〃	介護職員	富永 祐介	真和館
〃	介護支援員	坂口浩司郎	千草寮

調査・研究委員会			
役職名	職名	氏名	施設名
委員長	副施設長	三宅 浩徳	天草園
副委員長	介護支援員	田上 成美	野坂の浦荘
委員	生活支援員	中島 里美	菊池園
〃	介護職員	溝口 久志	しらがね寮
〃	指導員	今池 有香	真和館
〃	介護支援員	西濱 久代	千草寮
〃	相談員	洲上慎一郎	銀杏寮

役職員名簿			
役職名	職名	氏名	施設名
会長	施設長	藤本 和彦	真和館
副会長	施設長	永山 恵一	野坂の浦荘
監事	施設長	片山 辰己	千草寮
事務局	介護職員	江浦 一美	真和館



新任職員紹介

しらがね寮 介護職員 小田敏広

あさぎり町役場人事異動により、4月1日から勤務することになりました。以前は上下水道課に勤務しており、救護施設のような福祉関係の仕事は初めての経験であります。毎日が新鮮でとても充実した日々を過ごしています。1日でも早く仕事を覚えて頼れる介護職員を目指して頑張ります！

野坂の浦荘 介護支援員 原田豊子

野坂の浦荘で働き始めて1ヶ月が経ちました。初日はとても緊張しました。その日は遠足があり、お花見をしながらお弁当を食べたり、ゲームをしたりして、その様子を見て、一緒に参加するうち緊張もほぐれました。入所者の方々は皆さんとても親切で明るく、私の方が元気をもらっている気がします。

1日も早く仕事を覚え、入所者の方達と信頼関係を築けるよう頑張りたいと思います。今後とも皆様方のご指導をよろしくお願い致します。

野坂の浦荘 介助員 原口洋宇

野坂の浦荘に勤務し約2ヶ月半が過ぎました。最初は福祉関係の仕事が初めてだったので、バタバタする事ばかりでしたが、先輩方の温かい指導やアドバイス、そして何より入所者の方々が、社交的に話してくれる事で、すごく仕事に溶け込みやすい環境を作ってくれました。

いま私は介助員として仕事に取り組んでいます。先輩方の技術を1日も早く習得し、皆さんの助けとなるよう、そして入所者の方々と強い信頼関係に結ばれた介護支援員になることを目標に、日々精進していきたいと思っています。今後とも皆様方のご指導をよろしくお願い致します。

熊救協 2011 6月号(No18) 編集後記

福祉課救護施設しらがね寮に異動して、早一年が経ちました。福祉関係の仕事は初めてのことであり、デスクワークが主だった今までの業務とはずいぶんと違い、戸惑った面も多々ありましたが、逆に毎日、救護施設の現場が新鮮で勉強することも多く、充実した一年を過ごすことができました。今回、調査・研究委員となりまだまだ未熟ですが、一生懸命がんばりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

《熊救協調研委員：溝口久志(しらがね寮)》

編集：熊本県救護施設協議会 事務局：〒861-2401 熊本県阿蘇郡西原村大字鳥子3072番地
調査・研究委員会 真和館 Tel (096)279-1121
発行：熊本県救護施設協議会 Fax (096)279-1122

事業検討委員会

【平成22年度事業報告】

■救護施設交流会

22年度は、最後の実施となった大分・熊本スポーツ交流会を併せた救護施設交流会として、植木町の荒木観光ホテルにて実施。ゲートボールとグランドゴルフの2種目に、大分県より約25名、福祉事務所とボランティアで約30名、選手・審判の総勢約240名の参加を頂きたいへん大きな交流会となりました。ゲートボールは、安定した強さを誇る菊池園チームが、決勝トーナメント(4チーム)に2チーム勝ち上がるも、決勝戦で大分県の湊泉寮チームに惜敗し、2大会連続して大分県に優勝をさらわれました。しかし、2位から4位までは菊池園2チームと野坂の浦荘の熊本県チームが入賞する好成績でした。

グラウンドゴルフは、前回に引き続き団体戦とし、チームは出来るだけ施設毎の利用者と福祉事務所で組合せ、各施設の利用者がほぼ均等に入賞する大会とした。起伏のある天然芝の本格的なコースを、福祉事務所と各施設の利用者が一緒に競技を楽しみ、普段では出来ない交流が図られとても有意義な大会となった。

■事業検討委員会

平成22年	5月	第1回事業検討委員会 ・交流会最終打ち合わせ
平成22年	6月	第2回事業検討委員会 ・交流会の反省 ・次年度の交流会について
平成23年	2月	第3回事業検討委員会 ・次年度救護施設交流会について ・今後の救護施設交流会の在り方について ・平成23年度事業計画及び予算について

【平成23年度事業計画】

■救護施設交流会

開催日：平成23年5月

場 所：パークドーム 内 容：グラウンドゴルフ・ニチレクボール・輪投げ

■事業検討委員会

平成23年	5月	第1回事業検討委員会 ・交流会最終打ち合わせ
平成23年	6月	第2回事業検討委員会 ・交流会の反省 ・新たな交流会の在り方について
平成24年	2月	第3回事業検討委員会

研修委員会

【平成22年度事業報告】

■職員研修会報告

第1回	H22年6月24日(木)	参加者30名
午前	講話	精神障がい者と認知症について 講師 益城病院 医師 松永 哲夫様
午後	講話	感染予防等について 講師 県健康福祉部健康危機管理課感染症対策班 課長補佐 財津 和宏様

第2回	H22年11月11日(木)	熊本県民交流館パレア第1会議室 参加者79名(九救協22名、福祉事務所他19名、熊救協38名)
-----	---------------	--

午前	講話	社会福祉をめぐる動向について 講師 全社協高年・障害福祉部長 古田 清美様
午後	講話	更生保護施設について 講師 熊本自営会 施設長 松山 良二様
午後	講話	触法障がい者の支援について 講師 熊本県地域生活定着支援センター 所長 峯友 信介様

■研修委員会開催

第1回	H22年4月22日(木)	真和館、第2回H22年7月1日(木) 天草園
臨時委員会	H22年8月10日(火)	真和館、第3回平成23年1月20日(木) 銀杏寮

【平成23年度事業計画】

社会福祉基礎構造改善改革に伴う利用者の権利擁護、情報公開、サービス評価基準、苦情解決制度、福祉新時代に対応していくためには、職員の意識改革及び職員資質の向上が不可欠である。引き続き利用者サービスの質の向上に重点を置き、利用者支援研修を主体的に実施することで、専門職としての資質の向上を図る。

第1回	平成23年6月16日(木)	西原村構造改善センター
午前	講話	自立支援に向けた取り組みについて 「講師 熊本授産場施設長丸山 義行様」
午後	討議	職種別により問題提起してもらい討議
第2回	平成23年10月18日(火)	熊本県民交流館パレア
	参加対象者	九救協・熊救協職員・県、市福祉事務所職員・福祉関係機関職員等
午前	講話	精神障害について「講師 弓削病院 医師 堺 小織里様」
午後	講話	統合失調症について「講師 菊池有働病院 院長 大塚 直尚様」
	講話	アルコール依存症について「講師 益城病院 副院長 松永 哲夫様」

■研修委員会

年3回(4月22日(菊池園)、7月14日(銀杏寮)、1月19日(千草寮)) 予定
※場合によっては、今回も臨時の委員会を開催する計画です。

調査・研究委員会

【平成22年度事業報告】

■委員会の開催

第1回	平成22年	4月16日(金)	(千草寮)
第2回	平成22年	10月22日(金)	(菊池園)
第3回	平成23年	2月18日(金)	(銀杏寮)

■熊救協広報誌の発行

熊救協第16号(6月発行) 熊救協第17号(12月発行)

■熊救協ホームページの更新

平成22年	6月	(熊救協役員名簿、施設概要等の更新)
平成22年	7月	(熊救協広報誌バックナンバー第16号の追加)
平成22年	10月	(10月1日現在の施設概要更新)
平成22年	12月	(熊救協広報誌バックナンバー第17号の追加)

■緊急時の対応・対策調査

安全対策と防災対策の項目に分類し、各施設の取り組み状況がひと目でわかるように一覧表にまとめた。

【平成23年度事業計画】

■委員会の開催(4月・10月・2月)

■熊救協広報誌の発行(6月・12月)

■熊救協ホームページの更新関係

・熊救協役員名簿等の更新 ・各施設利用者状況等の更新 ・緊急時の対応、対策調査一覧表の掲載

■入所時対応マニュアルの見直し

■地域移行支援についてのアンケート調査

東北地方太平洋沖大震災ニーズ調査派遣について

真和館 潮谷 賢一郎

全国社会福祉協議会(全救協)から、平成23年4月18日～25日までの間、調査派遣の依頼があり、九州地区の救護施設の職員を代表して参加することになりました。

仕事の内容は、各施設のニーズ調査と厚生労働省から「東日本大震災通知集」の配布が依頼され、私は石巻市の南から福島県境まで任されました。調査を開始し、広範囲の被害に驚きました。その範囲を熊本県に置き換えると八代から千丁・松橋・宇土・熊本市までの範囲になります。結果的には、その間にある100近くの施設を訪問することとなりました。

津波のため平野部はヘドロ・ガレキ・大木が散乱し、車はグチャグチャに折り重なっており、以前の地目が宅地だったのか田畑だったのか全く想像もつかない状況でした。ガレキの山にふさがれ目指す施設へ行けない所もあり、行けたとしても水没全壊であり、施設の人たちは避難しているのか?もしかして?よからぬ想像をせざるを得ない状況で、津波の恐ろしさをあらためて実感した次第であります。

建物が残った施設は、1階が潮に浸かり家財は流され、臭いヘドロを掃除して2階で介護サービスを行い、その上に避難者も受け入れ、炊き出しも行っている有様でした。職員や入所者が行方不明であり、元気に働いておられる職員も家族や親戚が犠牲にあわれておられ、その中で頑張っておられる姿に、心が痛む思いがしました。「生き残ったものの試練です」と言いながら、トイレの水や洗濯の水は川の水、灯りは、お寺や葬儀屋さんを駆け回り、集めたロウソクを使っておられました。

被害の少なかった施設では、被災者の入所希望が増えてきたが身分証明書がない為入所ができないとのことでした。ある保育園では、園児の母親の職場が流されたことにより解雇され、園児が保育園を辞めなければならないとなったという話も聞きました。特例は、認められないということでした。

塩釜の魚市場を通った時ガレキの間に半壊した弁当屋があり、そこで弁当を売っておられました。少しでもお役にたてたらと思い弁当を買い、直ぐ、近くの塩釜神社の桜が綺麗と教えてもらい、そこでお昼にしました。

毎日ガレキ・ゴミ・ヘドロを見ていた私にとって、満開の桜を見て、とても心がなごみました。しかし、数百メートル下はガレキ・ヘドロの山、神社の境内は桜が満開でその光景は実に対照的でした。その場で、一日も早い塩釜を始め、宮城の太平洋沿いの復興を心から祈りました。

最後に、「がんばれ塩釜 がんばれ宮城」と私が廻った地域に、エールを送り、この文章を締めさせていただきます。



仙台市臨時本部にて打ち合わせ